「ファイン式御義口伝メモ」
http://777fine.web.fc2.com/

⑭時我及衆僧倶出霊鷲山の事

（御本尊についての一大事）

一心欲見仏（**信心**） 不自惜身命（**唱題**）	**（本門の題目）**	**三大秘法をあらわす**
時我及衆僧　倶出	**（本門の本尊）**	
霊鷲山	**（本門の戒壇）**	

「時我及衆僧倶出霊鷲山」 は「霊山一会」を表す。
つまりこの一文は「霊鷲山一会儼然未散」を表わしており、
これを十界宛然の曼荼羅にしたためたのが御本尊である。

どういうことか？

時　我　及　衆　僧　俱　出　霊　鷲　山

仏界　菩薩界　二乗

末法感応の時

全体を総括する言葉（十界全体を意味する）

（末法感応の時に、仏が菩薩、二乗その他十界すべてと共に出現する）

つまり御本尊は十界の生命そのもの

要するに、霊山一会とは、生命それ自体に十界三千が厳然として俱している姿。
大聖人はこの儀式を借りて、御自身の内証である久遠元初自受用報身如来の一念三千の生命を曼荼羅として御図顕された。

ただし、気をつけなければならないことは…、

大聖人は霊山一会の姿をあくまで「借りた」のであり、御本尊の左右の十界は、
霊山の儀式を借りてこそおれ、久遠元初自受用報身如来である御本仏の生命それ自体である。

御本尊＝大聖人の生命それ自体

御本尊とは何か

生命の十界互具一念三千を図顕したもの。
仏界の力と状態は言葉に尽くしがたく、想像すらできない。

↓この仏界を、

◎釈尊は宝塔の儀式で表現
◎大聖人は霊山一会の姿を借りて御図顕
◎天台は御本尊の姿を霊山一会儼然未散と説明

感応末法の時

「感」→ 衆生が仏の出現を感ずること

「応」→ この衆生の機根に応じて仏が出現すること

「時」→ 大御本尊出現の時

‖

久遠元初 ＝ **末法に御本尊が建立されるとき**
（久遠即末法）

倶出

「倶とは不変真如の理」

「倶」とは十界のことだから、大御本尊に十界がすべて常住している姿が不変であるということ。

「出とは随縁真如の理」

信心することによって、大御本尊の生命活動が我々に感応するということ。

「倶」は御本尊の十界の生命 「出」は我々の信心に感応する御本尊の十界の生命

「倶」→ 大御本尊そのもの
「出」→ 大御本尊による功力が涌現すること

つまり

「倶」→ 一念（信心の一念）
「出」→ 三千（三千の生命活動）

何故、倶（不変真如）が信心の一念なのか？

→ 誰でも御本尊を唯一無二と信じる「信」に到達することが<u>可能である</u>ということは万古不変のものだから。